

令和7年度第1回 第3次半田市地域福祉計画策定委員会会議要旨

開催日時	令和7年6月11日(水)	10時00分～12時00分
開催場所	半田市役所 会議室303・304(3F)	
会議次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>(ア) 各専門部会の報告について</p> <p>①権利擁護・居住支援部会</p> <p>②就労・参加支援部会</p> <p>③災害にも強い地域づくり部会</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>(ア) 計画本編について</p> <p>①第1章 計画の策定にあたって</p> <p>②第2章 半田市の状況</p> <p>(イ) 総合相談のしくみについて</p> <p>(3) 審議事項</p> <p>(ア) 計画の基本理念について</p> <p>4. その他</p> <p>(1) 市民研修の案内</p> <p>①支援者のための若者支援セミナー</p> <p>(2) 共助の地域づくり事業の評価について(報告)</p>	
出席者	<p>【委員】 ◎は委員長</p> <p>◎原田 正樹、石井 義廣、関 鋼太郎、中村 力章、鶴飼 数正、 山崎 千佳、森川 武彦、立石 佳輝、天野 真弓、山田 伸吾、 田窪 英樹、榊原 かおる</p> <p>【半田市 関係課】</p> <p>福祉部長 小林 徹、生活援護課長 森下 貴仁、 高齢介護課長 木村 智恵子、健康課長 竹内 健、 子ども育成課長 森本 総一郎、子育て相談課長 三輪 象太郎</p> <p>【半田市社会福祉協議会】</p> <p>事務局長 小野田 靖、事務局次長 加藤 恵</p> <p>事務局</p> <p>地域福祉課長 山本 勇夫、赤坂 英寿、川口 一美、加藤 裕加、 黒野 隼</p>	

次第	議事概要
1. 開会	<p>(地域福祉課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度第1回半田市地域福祉計画策定委員会を開会します。 ・本日は、今井委員、榑野委員、柴田委員、学校教育課指導主事高橋が欠席です。 ・委員15名中、12名の出席があり、半田市地域福祉計画策定委員会設置要領第7条第2項に規定する半数以上の出席があることから本会議は成立しています。 ・今年度から、ちた地域若者サポートステーションの人事異動に伴って新しく委員にご就任いただく鵜飼委員にご挨拶をお願いします。 <p>(鵜飼委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度4月から赴任しています。15歳から49歳までの無業状態の方や、引きこもり状態の方の支援を行っています。みなさんのお知恵を借りながら社会に出ていけるように支援していきたいのでよろしくお願いします。
2. 委員長あいさつ	<p>(地域福祉課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田委員長、挨拶をお願いします。 <p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・策定委員会は前年度から引き続いて今回が3回目の開催です。前回は市民アンケートの報告を受けて、3つの専門部会を立ち上げました。 ・本日は3つの専門部会の報告と、計画の枠組みについて協議し、基本理念についてご審議いただきます。限られた時間ではありますが、よろしくお願いします。 <p>(地域福祉課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半田市地域福祉計画策定委員会設置要領第7条第1項により、委員会の会議の議長は委員長がなると規定されておりますので、これからの議事進行につきましては原田委員長にお願いいたします。
3. 議事	<p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市や社会福祉協議会も人事異動でメンバーが変わっていますので、自己紹介をお願いします。 <p>(市・社協)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉部長、社協事務局次長、生活援護課長、高齢介護課長、子ども育成課長、事務局赤坂 あいさつ。 <p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告事項(ア)各専門部会の報告について、部会長よりご報告をお願いします。

<p>(1) 報告事項 (ア) 各専門部会の報告について ①権利擁護・居住支援部会</p>	<p>(山田委員) ・5/13 (火) に第1回の部会を開催し、現状と課題、あったら良いなというしくみを協議しました。 ・課題としては、「本人の情報シートの作成・活用から生活支援のサポートまで行うこと」や「死後の手続き・死後事務」、「家賃等未払い者への対応」、「保証人の確保」、「理解ある大家・不動産業者を増やすこと」、「相談対応の横のつながり」について等が挙げられました。 ・それらの課題に対して、「利益を押し付けないしくみ」や「死後事務の保険パッケージ」、「住環境を変えないしくみ」、「身元保証の対応できる範囲の視える化」、「死後事務の手続きの具体化」等があると良いと意見が挙げられました。 ・意思決定支援を含めて、どんな人でも住み続けられるまちづくりを目指して議論を進めていきます。 (原田委員長) ・体制を作っていくときにどのような課題がありそうですか。 (山田委員) ・現状、体制整備のための議論はできていませんが、「住まうこと」の中でも身元保証や、経済的課題など様々な要因が絡むため、ひとつひとつの要素を解決していくことが必要だという議論になりました。 (原田委員長) ・当該部会のメンバー以外でもご意見をお伺いします。 (関委員) ・築30年くらいのアパートに当初から入居している人は、概ね高齢者になっています。築年数が古いアパートでは、更新時期が明記されていない等により家賃が値上げできず、大家や管理会社が困っているという話を聞いています。親族がいても関係が希薄化していることで、単身高齢者となり、住み替えができない等の問題が出てくる可能性があります。 ・受け皿として公営住宅がないと困る人が増えていくと思います。 (山田委員) ・住み続けていく中で入居者の様子に変化もあり、例えば住み替えするときにも保証人が必要になるなど、新たな課題が生じます。 (原田委員長) ・大家の善意で対応していても、今後課題になることもありそうです。</p>
<p>(1) 報告事項 (ア) 各専門</p>	<p>(立石委員) ・4/25 (金) と6/6 (金) の2回開催しました。 ・1回目の部会では、「就労・参加支援」という大きなテーマの中、部会で</p>

<p>部会の報告について</p> <p>②就労・参加支援部会</p>	<p>は「①福祉人材の確保・育成」、「②就労人材への育成」、「③企業との協働」、「④地域人材の確保」を重点的に議論することとしました。それらのテーマについて、現状と課題について情報共有しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職氷河期世代にあたる40～50代の方の中で、若者サポートステーションでは40代まで、シルバー人材センターは60歳からを対象としており、50代の支援対策が手薄な状態であることが見られました。 ・2回目の部会では、現実的ではないものでも解決に資する取組や理想像について意見を聞きました。①～④の重点項目のいずれにも共通している「お金」というキーワードが出てきました。 ・①福祉人材の確保・育成については、今まで就職希望者に「やりがい」を訴えることが多い中、学生は待遇や福利厚生など現実的なビジョンを見据えており、学生への伝え方、見せ方への工夫が必要です。また、商工関係の移住促進の制度を活用する等、単独の事業所だけではできない部分の支援が必要という意見が挙げられました。 ・インターンや実習生の受入れを行っている事業所は多くあり、法人間の情報共有ができる体制づくり等を通じて、実習プログラムのベースアップを図っていく等を議論しています。 ・②③就労人材への育成や企業との協働については、働く手前の方への支援について、支援者同士の連携の強化を図っていきたいという意見が挙がっています。 ・市の業務支援室は、行政でとても助かっているという話がある一方で、シルバー人材センターへの委託が減ったということもあり、広い視点で取組を考える必要があると感じました。 ・④地域人材の確保については、学生や若手は忙しく、高齢者についても定年後の再雇用やシルバー人材センターへの登録など、人材の確保は難しいという話が挙がりました。また、企業で地域貢献活動をしていても、働き方改革などで活動を勤務として捉えるようになってきていると共有がありました。若手も就労人材も高齢者も難しさを感じています。 ・経済的余裕のある方とない方だと時間の使い方が違う可能性があり、様々な情報を共有した上で対応策について検討していきます。 <p>(田窪委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④地域人材の確保について、10年くらい前に自治区の活動をしていましたが、参加するモチベーションを高める活動が少ないと感じました。義務的、継続的活動が多く、自分たちの生活にどのように影響があるかわかると良いのではないかと思います。 <p>(関委員)</p>
------------------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに参加したいとする人が二極化しています。 ・定年後、自分のために時間を使いたいという人が多い印象を受けています。家族からボランティアを止められることもあると聞いています。 (田窪委員) ・30～40代でも柔軟な発想がないこともあります。 (関委員) ・子ども会や老人クラブもなくなってきており、役員の成り手がない現状です。親や周りの人がボランティアをしていないと、その子どももボランティアや地域のためにという意識が薄くなってしまおうと思います。 ・自治区と民生委員でも歩み寄れておらず、行政に間をつないでほしいと感じています。 (原田委員長) ・市民アンケートでも、ボランティアに参加したくないという人が年々増えています。教育の在り方を考えることにもつながっていると思います。
<p>(1) 報告事項</p> <p>(ア) 各専門部会の報告について</p> <p>③災害にも強い地域づくり部会</p>	<p>(森川委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/24(木)に第1回部会を開催しました。災害のためにしくみを作るのではなく、日ごろからの地域づくりが大事と考え、①地域活動への参加のしくみ、②災害時・緊急時の支え合いのしくみに分けて検討しました。 ・①地域活動への参加のしくみについては、子どもが忙しいこと、定年延長等により、今まで地域の支え手となっていた世代が活躍できる機会が減ってきたことが課題として挙げられました。 ・子どもの興味がある活動とマッチングするしくみが必要だと考えられました。学生や若者に対する情報発信の手法として SNS 等も考えられましたが、親や学校など近い人からの情報の方が、地域活動の情報発信としては適しているという意見が挙げられました。 ・支え手の人数が減っているため、多世代へアプローチしていくことが重要と考えられました。 ②災害時・緊急時の支え合いのしくみについては、昔ながらの関係を作っていくことは困難なため、今の時代でできるしくみづくりを行っていきたいです。課題としては、自主防災会の動きの地区ごとのバラつきや主で活動している人とそうでない人の温度差があり、まずは活動を知ってもらうことが大事だと意見が挙げられました。 (榊原委員) ・災害時だけ強い地域はありえないことなので、日ごろからの地域づくりが大切だと思います。地域活動に無関心な方をいかに巻き込んでいけるかが難しいと感じています。自治区の加入率も5割弱で、自治区にも地域活動

にも参加するメリットを求められており、どのような対応策があるか次回以降の部会で検討していきます。

(原田委員長)

・3つの部会それぞれの共通項は、基盤になる地域をどのように支え合いができるように、また、活性化できるようにしていくのかということだと感じました。

・部会長や事務局で、部会の進め方で課題になっていることはありますか。

(森川委員)

・スピード感を求められているので、部会と部会の中で事務局と打合せするなどに対応しています。部会で話し合う内容は、主に課題への対応策なので、計画にどのように落とし込んでいくかは調整が必要かと思います。

(原田委員長)

・計画に取りまとめるときに、計画に反映する内容と、第3次計画だけでは対応できないため、中長期で議論していく内容を整理して議論していくと良いと思います。

(事務局)

・部会で議論された内容に加え、国や制度の動向を部会へ情報提供しながら進めていきたいと考えています。

(原田委員長)

・3つの専門部会で議論されているテーマは、国で法改正を含めて検討されています。

・①権利擁護・居住支援部会に関連するところでは、身寄りのない高齢者支援をどのようにするかについてです。「身寄りのない高齢者」をどのように定義するかが検討されています。半田市でも単身化が進んでいき、保証人の課題や、死後事務だけでなく死後支援(片付け、お墓、ペット等)についても来年の通常国会に向けて議論されているところです。

・②就労・参加支援部会に関連するところでは、重層的支援体制整備事業の参加支援は範囲が狭くなってしまうので、対象を限定しない参加のあり方を部会で議論されており、大切な視点です。福祉人材の確保については、自治体の役割として位置づけられており、過疎地域だと自治体単位で福祉人材を求人し、就職者をそれぞれの事業所に振り分けるしくみもあります。また、福祉人材確保法が改正の準備がされており、人間関係が原因で離職した人が他事業所で勤める人材バンクを作る自治体も出てきています。

・③災害にも強い地域づくり部会に関連するところでは、災害救助法が改正され、「福祉」が位置付けられることになり、ボランティアを事前登録しておくこととなりました。また、福祉事業所も地域と一緒に防災訓練をして

	いたが、指定福祉避難所では、事前に登録した人しか受入れができなくなってしまうため、従来の福祉避難所との整理を進めていく必要があります。
(2) 協議事項 (ア) 計画本編について ①第1章 計画の策定にあたって	<p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から説明をお願いします。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2-1 (P.19~22) により説明。 <p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画の計画期間は自治体で決められますが、介護保険や障がい者保健福祉計画等は3年に一度見直しをすることが決められています。地域福祉計画は分野別計画の横串を刺す計画であり、分野別計画やその上位の総合計画と合わせて進行管理するために、計画期間をどのように設定するのがよいかご意見がありましたらお願いします。 <p>(森川委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野別計画は地域福祉計画を見ながら理念や取組を反映させることがあります。分野別計画と同じ年度に地域福祉計画を策定すると、方針が分からない中で分野別計画の検討を進めなくてはならないため、分野別計画策定の前年度に地域福祉計画が策定されていると良いと思います。 <p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画はどのようになっていますか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の総合計画は、「チャレンジするまちはんだ」の理念のもと、章ごとに分野を分けて策定しており、福祉分野は1章分あります。 <p>(立石委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野別計画の策定年度の前に地域福祉計画がある方が、分野別計画を検討しやすいと感じます。令和13年度に地域福祉計画を策定することが委員、事務局それぞれの負担軽減からも良いと感じますが、市民アンケートの結果の変動が大きいことが懸念点です。 <p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野別計画の理念や方向性を地域福祉計画で一元化し、分野別計画ではサービス量や保険料の見直しのみ行うことでコンパクトに議論できると思います。 ・庁内でも議論し、次回の策定委員会で再度提案してください。

<p>(2) 協議事項 (ア) 計画本編について ②第2章 半田市の状況</p>	<p>(原田委員長) ・事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局) ・資料2-2 (P.23~36) により説明。</p> <p>(原田委員長) ・他に必要なデータやデータの解釈についてご意見をお伺いします。</p> <p>(関委員) ・P.28 子どもの人口が減少している中で、次の計画で具体的な少子化対策や子どもを中心に取組を落とし込んでいく必要があると思います。</p> <p>(中村委員) ・P.29 外国籍市民への対応について、学校でも先生やSSWのマンパワーを割きすぎてしまうと、不登校や困りごとのある児童に手が行き届きにくくなってしまふことが懸念されます。</p> <p>・外国籍市民と従来から住んでいる地域住民が、言語の壁を越えてどのように交流していくか懸念しており、外国籍市民の不登校、引きこもりの課題も生じうると感じます。</p> <p>・子育てしやすい環境は、ある程度充実しているのではないかと感じます。</p> <p>(原田委員長) ・外国籍支援だけでなく、外国籍市民をパートナーとして地域活動や福祉人材として活躍できる機会をつくっていくことが必要だと考えます。</p> <p>(山崎委員) ・親の価値観の変容により、子どもの価値観も昔とずいぶん変わってきているように感じます。</p> <p>・親子の世代が市外に出て行かないような取組があると良いと感じます。</p> <p>(原田委員長) ・引き続き、必要なデータやデータの解釈があれば、事務局に提案してください。</p>
<p>(2) 協議事項 (イ) 総合相談のしくみについて</p>	<p>(原田委員長) ・事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局) ・資料3 (P.37~39) により説明。</p> <p>(原田委員長) ・地域の中で相談を受けたとき、どのように相談をつないでいくかなどご意見をお伺いします。</p> <p>(鵜飼委員) ・日頃相談を受けている中で、身近に相談できる場所がない、相談できる人</p>

	<p>がないなどの声を聞くことがあります。最近では、インターネットで無料相談ができ、次の一歩に進む機会になることもあります。トラブルも多々出ています。相談員のスキルアップや、相談者が誤った方向に進まないように気をつけられることが必要だと感じます。</p> <p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、窓口がありすぎてどこに相談したら良いのか分からないといった声も聞きます。 ・闇バイトの入口は、「相談」からと聞きます。相談先があるからすべて安心というわけではないことに注意が必要です。 <p>(天野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半田市は良い取組をやっていても、市民に伝わっていないことが多くあると感じます。親世代にも伝えられる媒体である「コドモン」や半田市のラインを上手く使って、正しい情報を発信していくことが必要だと考えます。 <p>(石井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団塊の世代は「人の世話にならない」という価値観があり、窓口に行こうとも思わない人がほとんどです。窓口に行かなくてもいいように、地域に溶け込まずことが地域のつながりだと思いますが、地域で何をしたらつながりが持てるかを悩んでいます。 ・忘年会や運動会などの自治区のイベントも人が集まらなくなってきています。子育て世代は地域活動に報酬を求めようになっていると聞きますが、「子どものために」という共通項があれば進められるものもあるのではないかと考えます。 ・先ほどの第2章の統計データで、高齢者世帯数や単身世帯数の推移、空き家数があると危機感を感じられると思います。 <p>(関委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の仕事として高齢者訪問がありましたが、一時的に止まっていたものを市からツールをもらって訪問を再開しようと思います。 ・P.37「信頼できる人・相談できる人がいない」の割合が高く、高齢者を中心に民生委員の活動をより活発に行っていきたいと考えます。 <p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職だけが相談窓口ではなく、地域も一緒に相談をキャッチするしくみについて議論を進めていってください。
<p>(3) 審議事項 (ア) 計画の基本理念につ</p>	<p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から説明をお願いします。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料4 (P.40~44) により説明。

<p>いて</p>	<p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに支え合うのではなく、日ごろから多くの人で支え合うしくみを理念としたいというところです。 ・委員のみなさんからご異議はありませんか。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異議なしの声 <p>(原田委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本理念については、事務局からの提案のとおり承認いただきました。 ・事務局にお戻しします。
<p>4. その他(連絡事項等)</p>	<p>(地域福祉課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田委員長、ありがとうございました。 ・それでは、事務局から4 その他 (1) 市民研修の案内について説明します。
<p>(1) 市民研修の案内 ①支援者のための若者支援セミナー</p>	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシにより説明。 <p>【質疑応答】特になし。</p>
<p>(2) 共助の地域づくり事業の評価について(報告)</p>	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料5 (P.45~46) により説明。 <p>【質疑応答】特になし。</p>
<p>(3) その他</p>	<p>(地域福祉課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の委員会は、8月ごろの開催を予定しています。会議の開催については改めてご案内差し上げます。 ・これをもちまして、令和7年度第1回第3次半田市地域福祉計画策定委員会を終了します。ありがとうございました。
	<p>(終了)</p>